

科名 外科
 対象疾患名 乳がん
 プロトコール名 キイトルーダ+GEM+CBDCA(乳線)

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	...	8	...	21
1	点滴注	メイン	生食	500mL	ルートキープ 残破棄可	↓		↓		
2	点滴注	側管	グラニセロンバッグ デキサート	1mg 9.9mg	30分かけて	↓		↓		
3	点滴注	側管	又は パロノセロンバッグ デキサート	0.75mg 9.9mg	30分かけて					
4	点滴注	側管	キイトルーダ 生食	200mg/body 100mL	30分かけて 投与前後生食フラッシュ	↓				
5	点滴注	側管	ゲムシタビン 5%ブドウ糖	800、1000mg/m ² 100mL	30分かけて	↓		↓		
6	点滴注	側管	カルボプラチン 生食	AUC2 250mL	30分かけて	↓		↓		

★1クール＝21日

～MEMO～

催吐レベル3(30%以上90%未満)

day2～3にデカドロン1回4mgを1日2回朝、昼食後に内服。(8mg/day)

＜ゲムシタビン＞

ゲムシタビンは必ず30分で投与(副作用増強防止のため)

禁忌:間質性肺炎、肺線維症のある患者、胸部への放射線療法との併用

血管痛の対処方法:

①静脈炎・血管痛を予防するために以下のことを考慮し、点滴の針を刺す。

・血流の良い太い血管をできるだけ使用する。

・毎回、できるだけ穿刺部位を変える。

・長く留置していた静脈、過去に静脈炎を起こした血管は避ける。

②点滴中は、以下のことを考慮し、投与する。

・点滴の入っている腕を予め加温し、血管を温めて広げ、血流を良くする。

・メインの生理食塩水の投与量を増やし、より希釈しながら投与する。

＜カルボプラチン＞

投与量計算:AUC2=2x(Ccr+25)

アレルギー発症時期:8回目以降

＜キイトルーダ＞

本剤作用機序により、過度の免疫反応による副作用が現れることがある。発現した事象に応じた専門医と連携すること。

特に注意を要する副作用:間質性肺疾患、大腸炎、重度の下痢、肝炎、神経障害、副腎障害、重度の皮膚障害

infusion reaction、重症筋無力症、筋炎、1型糖尿病、甲状腺機能障害、腎障害、脳炎、静脈血栓症

インラインフィルター(0.2または0.22ミクロン)を使用し、投与前後に生食でフラッシュする。